

●フィリピン

社会主義が世界中で資本主義に対し勝利することが必然である

アントニオ・E・パリス（フィリピン共産党（PKP—1930）書記長）

同志の皆さん

〈活動家集団 思想運動〉が十一月九日、東京において一九一七年十月大社会主義革命一〇二周年記念集会を開催されるにあたり、フィリピン共産党（PKP—1930年）は厚い連帯のご挨拶をお送りします。また、本集会の成功を祈念しております。

ロシアにおいて十月二十五日（かつてツァーリの支配するロシアで用いられていたユリウス暦の日付。今のグレゴリオ暦では十一月七日に当たる）に勝利した十月大社会主義革命は、現代史上もっとも偉大で決定的なできごとであり、そのことは今も変わりありません。十月大社会主義革命は資本主義制度廃絶の闘いにおける転換点であり、このとき以降人類は社会主義に向け一歩を踏み出したのです。

帝国主義諸国の植民地をはじめとする世界の労働者は、資本家と地主による支配の撤廃、君主制の廃絶、ツァーリ帝国の打倒と完全な民族自治、そして男女平等の実現のためロシアの労働者と農民が成し遂げたこの闘いに大きく勇気づけられました。人類が数世紀にわたって追い求めてきた平等と公正、そして人間による人間からの搾取を廃絶した社会主義社会がこのときついに現実のものとなったのです。

しかし帝国主義者は新たな社会主義社会が存在し拡大することを望まず、生まれたばかりのソビエト連邦を絞殺するためあらゆる手段を講じました。建国から二、三か月と経たないうちに数十万もの帝国主義諸国の軍隊がソ連の北と東に侵攻し、内乱の中で反革命勢力を助けました。極東地域へは日本、米国、英国、カナダ、フランス、イタリアなどが一四万もの帝国主義の軍隊を送り込み、ウラジオストクやシベリア地方を侵略しました。

ツァーリのニコライ二世を打倒し、西ロシアで社会主義政権を樹立した反君主制のボルシェビキ革命が東方へ拡大することは、日本政府と同国の天皇制の大いに怖れることでした。首相寺内正毅の指示を受け、海軍少将加藤寛治指揮下の軍艦二隻が十月革命の勝利からわずか二か月後の一九一八年一月にウラジオストクに到着し、兵士を上陸させました。米国もまたフィリピンの米軍をウラジオストクへ急行させ、シベリア横断鉄道沿いの地域を掌握するとともに反ボルシェビキの「白衛軍」を助けました。

一九一八年八月にはすでに、参謀長由比光衛と陸軍大将大谷喜久蔵が指揮する七万超もの日本軍兵士が日本の植民地である満州を拠点に、バイカル湖やブリヤートへと至るシベリア地方への攻撃を開始していました。日本軍はまた一九一八年十一月にはすでに、沿海州とシベリアのチタ東部にあるすべての港湾および主要都市への攻撃を開始するとともに、ザバイカル地方とウラジオストクにおいて傀儡政権が樹立されるのを助けていました。三井、三菱といった財閥は一九二〇年までのあいだに五万を超える入植者を引き連れ、シベリア横断鉄道東部のウラジオストク、ハバロフスク、チタなど主要都市に進出し地歩を築いていました。

帝国主義諸国政府は、一九二〇年七月にはその軍隊をソビエト・ロシアから引き揚げていましたが、日本政府だけは例外でした。日本政府は共産主義に対し強い敵意を抱いており、日本が支配する満州や朝鮮そして自国にまで共産主義が拡大するのを怖れました。そのため日本軍によるシベリア駐留は一九二二年十月まで、またサハリン島北部の占領は実に一九二五年五月までつづいたのです。

帝国主義者が十月大社会主義革命で誕生したソ連を憎悪したのは、ソ連が世界中の反帝国主義・反資本主義闘争に大きな影響を与えたためでした。フィリピン共産党（PKP—1930

年)も十月大社会主義革命に鼓舞され、一九三〇年八月二十六日に結成されました。また、創立を公式に内外に闡明する大会が開催されたのは、十月大社会主義革命から一三周年目の一九三〇年十一月七日のことでした。今年創立八九周年を迎えたわがフィリピン共産党(PKP—1930年)は、創立以来ずっと労働者階級に基礎を置いていること、そしてマルクス・レーニン主義を堅持していることを誇りにしています。

フィリピン共産党(PKP—1930年)は、社会主義への道を切り開き、外国からの介入を阻止し、反ファシズム戦争で最大の貢献をするとともに、大戦後においては社会主義の勢力を拡大・強化し、戦略的に帝国主義と対峙しうる力を維持しつづけるため大きな犠牲を払ってきたソ連人民に対し心からの敬意を払いつづけています。フィリピン共産党(PKP—1930年)にとって、一九九〇年から九一年にかけて生起したソ連および社会主義ブロックの解体は悲劇でした。フィリピン共産党(PKP—1930年)は、一九九〇年から九一年に社会主義の後退が生じた主な要因が、ソ連など社会主義諸国で政権を担っていた共産主義政党の最高指導部に取り入ることのできた帝国主義工作員の画策によるものと確信しています。フィリピン共産党(PKP—1930年)はまた、この後退が一時的であり、米国およびEUの支配下で資本主義の抑圧を経験した東欧および旧ソ連の労働者・人民がふたたび階級意識に目覚め、社会主義の樹立に向け、しかもより強固な基礎をもった社会主義の樹立に向け闘いはじめるにちがいないと考えています。

資本主義制度においては全般的危機が繰り返されており、人民はさまざまな側面から闘争を展開しています。ギリシャ、ポルトガル、スペイン、アイルランドなどEU諸国では労働者による階級闘争が、パレスチナでは米国が支援するシオニストの占領に抗する民族解放闘争が、シリアおよびレバノンでは帝国主義者—聖戦主義者連合の介入を阻止する闘争が、アフガニスタンとイラクでは独立のための闘争が、キューバ、ベネズエラ、ベトナム、ラオス、ネパール、南アフリカ、ベラルーシなどでは社会主義政権や進歩主義的政権を防衛するための闘争が展開されているのです。こういった闘争は帝国主義の力を削ぐとともに、帝国主義が資源と利潤を貪欲に略取するのを妨げています。帝国主義を拒否するキューバ、ベネズエラをはじめとするALBA(米州ボリバル同盟)諸国で進められている傑出した闘争は、多くの人民と政府にこれから進むべき道標を示しつづけています。

十月大社会主義革命一〇二周年のこの機会に、あらためて社会主義が世界中で資本主義に対し勝利することが必然的であると申し上げフィリピン共産党(PKP—1930年)からのご挨拶といたします。

同志愛をこめて

二〇一九年十一月一日

アントニオ・E・パリス フィリピン共産党(PKP—1930)書記長

【訳=木田誠也】

(『思想運動』1048号 2020年1月1日号)